

# 福井県議会だより 第6号



模擬議会体験（福井県恐竜ブランドキャラクター「ラプト」と児童の交流）

## 9月定例会の概要

9月定例会は9月10日に開会し、10月3日までの24日間にわたって審議を行いました。

開会日の本会議終了後には全議員協議会を開催し、知事から提出された補正予算案をはじめとする18議案の説明を受けました。このうち決算認定に係る2議案の審査のため、19日の本会議において決算特別委員会が設置されました。

今定例会では、前回に引き続き人口減少問題が大きく取り上げられるとともに、7月に全線開通した舞鶴若狭自動車道について、観光振興における効果や4車線化など今後の整備予定に関する質疑が行われました。

また、広島市の土砂災害を教訓として、本県の災害対策など安全・安心な県民生活のための取組みの必要性についても、複数の議員が取り上げました。

加えて、議員からの提案として、18日に「原子力規制の在り方に関する意見書」が、また閉会日に「地方に人口と活力を取り戻す政策の実現を求める意見書」が可決され、関係行政庁に送付しました。

閉会日には、公安委員会委員等の選任同意に係る2議案が追加提案され、12月定例会までの継続審議とした決算に係る2議案を除く計18議案と、請願・陳情等の採決を行い、今定例会に付議された案件の審議を終了しました。

## 目次

|    |                            |
|----|----------------------------|
| 1  | …9月定例会の概要                  |
| 2  | …代表質問                      |
| 4  | …一般質問                      |
| 9  | …10…常任委員会                  |
| 11 | …14…特別委員会                  |
| 15 | …16…閉会中の委員会の活動             |
| 17 | …特集「ピックアップ県政課題「福井県の土砂災害対策」 |
| 18 | …議案等議決結果                   |
|    | 12月定例会会期（案）                |

## ◆代表質問

自民党県政会

山岸 猛夫 議員



### 少子化対策について

問

本県では、平成22年3月に策定した「第二次福井県元氣な子ども・子育て応援計画」に基づき、仕事と子育ての両立支援など、様々な施策を展開しているが、少子化を食い止めるまでには至らない状況が続いている。この計画も今年度

答

が最終年度となっており、次の計画を策定する際には、本県の現状についても一度検証を行った上で、思い切った施策を展開するべきではないか。

他の地域にはない福井県独自の少子化対策を講じ、県民が具体的にその効果を実感できるようにしていくことが必要と思うが、知事の所見を伺う。

県では、全国に先駆けて、地域縁結びや3人の子応援プロジェクト、企業子宝率の導入など独自の政策を進めており、合計特殊出生率は全国上位を維持し、子育て先進県として評価されている。また、女性の生涯未婚率は全国では最も低く、昨年の婚姻件数は全国第2位の伸び率になっているが、絶対数において未婚化・晩婚化に歯止めがかかっていない。

今回の計画策定委員会でも、これまでにはない殻を破った大胆な政策がぜひとも必要だという

声が非常に多く上がっており、県民が実感できる効果的な対策を進めていく。

### 観光行政について

問

恐竜博物館の集客力は、県内でも有数であるが、

観光客が恐竜博物館以外の県内観光地を訪れたり、県内に宿泊しなければ、県内観光産業が潤わない。恐竜博物館という強力な誘客施設から県内各地の観光地へと県外観光客を誘導する仕組みづくりこそ大切である。

県外観光客による県内周遊を促進するため、恐竜博物館と県内観光地がともに協力し、県内広域観光の魅力を高める取組みが必要と考えるが、知事の所見を伺う。

答

観光客に恐竜博物館以外の観光地を周遊してもらうために、首都圏などの親子

を対象にした奥越地域のアウトドア体験を生かした滞在型ツアーの実施や、恐竜博物館の来館者を勝山市や大野市など周辺地域へ誘客する取り組みへの支援、金沢駅等から県内観光地をめぐるバスツアーなどを促進していく。

### 中山間地域の農業の維持について

問

中山間地域では、高齢化の進行等によって以前から農業者の確保に苦労しており、耕作放棄地が増大している。

県は、JAが主体となって設立する中山間地域等での農作業を受託する組織に対する助成を行うとのことであるが、中山間地域の農地を維持していくためには、さらに積極的な対策を県が中心となって打ち出していくことが必要と考える。今後の取組みについて所見を伺う。



答

本県は、厳しい中山間地域が幸いに少なく、本県独自の地域営農サポート事業、集落営農の組織化を推進した結果、耕作放棄地の面積は全国で3番目に少ない状況となっている。

しかし、集落営農組織のない中山間地域の農地についても維持していくことが必要であり、今年度からJAによる広域作業受託組織づくりを進めている。

さらに、中山間地域の農業活性化のため、県内企業による園芸農作業や農産物販売などの地域特産物応援団育成事業により、地域特産物の生産や販路の拡大等を進めていく。



※ 質問および答弁は発言の一部であり、詳しくは福井県議会HPで御確認いただけます。

民主・みらい

野田 富久 議員



### 長期財政収支見通しについて

問

県は昨年3月、平成26～40年度にわたる長期の財政収支見通しを明らかにした。税収では26年度1290億円の見込みに対し、36～40年度は単純割で年1380億円と増収、歳入総額も増額の見通しを立てている。これは、拡大成長政策による長期見通しであり、増え続ける借金を後世に負担させることとなる。人口減少に対応した見直しを行うべきと考えるが、現時点において変化はないか。また今後の見直しについて所見

を伺う。

答

税収は経済成長率の変動に左右されるので、人口減少傾向の推計を踏まえて作った。国の経済財政の中長期試算における経済成長率よりも厳しい成長率を想定し、それに消費税の増額見通しを組んで試算している。人口減少の中で将来にわたる税収確保のためには、本県の経済を発展させることが重要であり、付加価値の高い産業の育成、ふるさと企業減税の実現を国に求めるなど、経済成長と人口減少につながる政策を総合的に進めていく。

### 原発再稼働の判断について

問

知事には県民の生命を守るため、防災避難計画の策定と実効性ある運用を行うという、地方自治の長としての第一義的使命が課せられている。新聞社の8月の世論調査では56%が再稼働反対、32%が賛成で

ある。知事は、原発の安全性にのみ頼るのではなく、万一の時の原子力防災避難について正面から向き合い、防災避難の実効性を有識者も加わって具体的に検証し、議会の審議、県民への説明会を行った後に、責任をもって再稼働の可否を判断すべきと提言するが、所見を伺う。

答

原子力発電所の再稼働については、政府の責任で再稼働の議論をより腰を据えて行うことが大事である。県としても、再稼働については、プラントの安全が最優先と考えており、県の原子力安全専門委員会において国や事業者の対応を確認し、県議会の議論、立地市町の意見をもとに十分慎重に対応していきたい。なお、防災対策については、一つ一つの積み重ねが重要であり、常に継続して現実的な充実を図り、新たな課題に対応した見直しを日々行うことにより、全体としての防災力の向上に努めていく。

# 一般質問

## 質問と答弁ごとの音声データの掲載について

福井県議会では、代表質問および一般質問について、従来のライブ中継や録画の中継に加え、音声データを質問と答弁ごとに分割し、本会議終了後、当日中にホームページに掲載し、全ての質疑およびその答弁の内容をわかりやすく速やかに情報提供することとしておりますので、ぜひご利用ください。

○アクセス方法 福井県議会ホームページトップ画面から

- 「インターネット中継」の中の「県議会質問・答弁内容」をクリック
- 一覧表の議員名をクリック
- 「質問要旨・内容」または「答弁内容」の「音声データ」をクリック

### 県庁職員への結婚支援

松井 拓夫 議員  
(自民党県政会)



#### 問

県が人口減少対策を掲げるのであれば、まず、県職員が率先して目指すべき姿を示していくべきである。県職員は業務が忙しく、出会いの場も少ないと聞くと、県職員の未婚者については、部局長を中心に組織的な縁結び活動を行うなど、県庁をあげての結婚支援を考える必要があるのではないかと。

#### 答

県として、県民の結婚支援に全力で取り組む。その上で、地域の縁結びさんの活動拡大に合わせ、県庁でも本年5月から、若手職員のいる所属に出会い応援員を設け、40歳前後の先輩職員が民間企業との交流会等を企画し、8月までに延べ百名余りの若手職員が参加している。今後も民間団体等で構成する「ふくふく出会い応援団」と連携する等出会いの場づくりを強化していきたい。

#### その他の質問事項

○県立恐竜博物館の充実と周辺整備等

### 地球温暖化対策への取り組み

大久保 衛 議員  
(自民党県政会)



#### 問

近年多発する異常気象は、地球温暖化が要因であると裏づける研究成果が発表された。一方、昨年のCOP19で、日本は2020年度までに温室効果ガスを2005年度比3.8%減少するとの目標を示し、さらに高い目標を掲げる自治体も出てきている。本県も温室効果ガスの削減目標を早急に定め、地球温暖化対策に積極的に取り組むべきであるが、所見を伺う。

#### 答

地球温暖化は我々の生活の基盤に関わる極めて重要な課題であり、国に実効性のある対策のため、エネルギーのベストミックスを定めるよう要請している。COP19における国の削減目標は国際的な批判を受けているが、来年のCOP21までに示される予定の国の新たな枠組みをもとに、県としての削減目標の設定や対策を実行していきたい。

#### その他の質問事項

○「たばこ」税、大気汚染等

### 特別警戒区域における砂防ダムの整備

玉村 和夫 議員  
(民主・みらい)



#### 問

8月の広島県の豪雨による土砂災害を受けて、本県では、土砂災害警戒区域の指定見直しに向けた再調査を実施することである。本県の特別警戒区域のうち、山際に開発された住宅地と「まさ土」の箇所はどれくらいと見込んでいるのか。そのうち砂防ダムが整備済み、計画中、地元から要望が出ている箇所はどのくらいあるのか。

#### 答

これまでに指定した特別警戒区域のうち、460カ所に風化が進んでいる64カ所に砂防堰堤を整備している。山際の住宅地については、今後の再調査で明らかになると考えている。花崗岩地域における砂防設備の整備について、地元からの要望は受けていないが、再調査を受けて、緊急性の高い箇所から計画的に整備を進めいく。

#### その他の質問事項

○文化・技術の継承等



抜本的な鳥獣捕獲強化  
対策へのアプローチ

細川 かをり 議員  
(無所属)



問

シカ等の食害による森林環境の悪化が抜き差しならない状況であるのを受けて、環境省は昨年末、「抜本的な鳥獣捕獲強化対策」を打ち出した。二ホンシカ、イノシシの生息数を、平成35年度までに半減させるということで、都道府県別の目標も示すというものであるが、県はこの目標に対し、どのようにアプローチするのか。

答

鳥獣捕獲強化に向けて、今年度から森林組合に正式に捕獲を依頼し、有害捕獲の経費の一部を補助するとともに、市町の捕獲スキルアップのため、実地研修を年間30回程度開催し、捕獲をふやしていく。また、来年2月には、集中捕獲を行い、これまで実施していなかった鳥獣保護区での有害捕獲を複数の市町で共同実施し、対策を強化する。

その他の質問事項

○中山間地域のビジョン等

本県における  
危険ドラッグの状況

笠松 泰夫 議員  
(自民党県政会)



問

最近、危険ドラッグの吸飲者による交通事故が社会問題となり、国等で取締りの強化を図る動きが見られる。本県における検挙の状況、危険ドラッグ使用による交通事故の発生状況と合わせ、県警による検挙対策について伺う。

答

本年5月、県内で初めて危険ドラッグ所持の男を麻薬及び向精神薬取締法違反で検挙した。また、交通事故は2件発生している。これらを踏まえ、職務質問等あらゆる警察活動を通じて押収・発見・検挙、販売ルートの解明と密売組織の壊滅、ネット上の流通実態の把握など情報収集の強化を内容とする通達を发出し、指示を徹底した。今後、供給の遮断と需要根絶のため、検挙対策を強力に推進する。

その他の質問事項

○福井の再生に向けた諸課題、足羽川ダムが多機能化等

防災の観点からの  
舞鶴道の4車線化

田中 宏典 議員  
(自民党県政会)



問

舞鶴若狭自動車道は、嶺南の産業振興、観光活性化等だけでなく、並行する国道27号の交通渋滞解消や交通事故の減少、災害時の代替ルートとして大きな役割を果たすものと期待している。防災の観点から4車線化は必要であり、今こそ嶺南6市町、舞鶴市とともに行動を始めるべきと考え、所見を伺う。

答

京都府内では福知山1Cから舞鶴西1C間の一部でNEXCO西日本が4車線化事業を実施しているほか、本年度中に京都縦貫道の全線開通が予定されている。こうした周辺の交通状況の変化も念頭に、本県の区間について、交通量の推移や観光への影響などの動向把握に努め、4車線化の必要性を検討していきたい。

その他の質問事項

○原子力政策の諸課題、原子力防災訓練の効果と課題等

県・市町が相互連携  
した人口減少対策

鈴木 宏紀 議員  
(自民党県政会)



問

県内市町同士の間で定住人口の過度な奪い合いに発展させないために、県と市町との連携及び市町間の相互連携がとれるよう、県は広域的な観点に立って、調整役としての役割を果たし、県と県内の市町が共有できるビジョンを持ち、その実現に向けて県と市町が一体となって取り組むべきと考え、所見を伺う。

答

県は、これまでも市町と協力しながら対策を進めてきたが、若年女性のUターン者が減少傾向にあるなど、今後は局面変化を捉えた対策の強化が必要である。現在、12の市町が新しい組織を設けるなどして、地域の実情に応じた具体的な検討を進めており、こうしたものがまとまった段階で各市町と意見交換を行い、地域の特性を生かした独自の政策を追加・実行していく。

その他の質問事項

○防災・減災等

市町のふるさと帰住  
への取り組み支援

石橋 壮一郎 議員  
(公明党)



問

地方創生は、各地域が主体性を持って特色を生かし、独自性を発揮して取り組まなければならぬ。県が、市町の工夫を尊重し、それらとかわって応援する仕組みが必要である。そうすることにより相乗効果を生む場合もある。県は、各市町のふるさと帰住の取り組みにどのように連携支援していくのか。

答

今年度から、帰住政策のレベルアップを図るため、市町担当職員を対象にした研修会を開いている。市町の情報発信、県外相談会の参加支援、相談機能・情報機能の強化を図っている。

今後は、移住希望者の仕事探しの支援の充実、空き家を活用した体験、交流施設の整備等を支援し、相談から体験、就職までトータルに支援していく。

その他の質問事項

○経済新戦略の改定等

文部科学省が示した  
「チーム学校」の実現性

山本 正雄 議員  
(民主・みらい)



問

日本の教員の長時間でも忙な勤務状況は、学校訪問でも課題とされ、OECDの調査結果も出ている。文部科学省は、福祉専門家、外部の部活動指導者事務職員を増員し、教員の負担軽減及び授業への専念により、子どものさらなる学力向上を図る「チーム学校」の方向性を打ち出したが、その実現性について認識と見解を伺う。

答

各国の文化、習慣の違いから単純比較はできないが、教員の勤務時間の改善は必要になる。「チーム学校」は、多様な教育課題に対して、専門性や経験を持つスタッフを配置し、学校組織全体で課題解決する仕組みである。本県では、既にソーシャルワーカーや部活指導者等を拡充しているが、「チーム学校」による教職員の定数増、外部人材の活用に期待する。

その他の質問事項

○人口減少と若者流出対策等

森元首相の北陸新幹線  
福井先行開業発言

大森 哲男 議員  
(自民党県政会)



問

政府と与党において、敦賀までの3年前倒し開業を検討している中、森元首相が、金沢―敦賀間の一括開業でなく、福井までを先行開業すべきとの意見を述べた。福井先行開業は、県内経済界も望んでいたことであり、新幹線の経済効果を少しでも早く福井県にもたらしするためにも、議論を進めるべきではないかと考えるが、所見を伺う。

答

敦賀までの3年前倒しの実現が年末までの最優先の課題であると考えている。今後県議会と力を合わせ、沿線市町、経済界などと一丸となつて、少なくとも与党案どおりの整備スキームの見直しができ、最終判断が早急になされるよう、政府と党に対し強く求めていく。

その他の質問事項

○独自性ある創生策等

北陸線第三セクター  
における利便性確保

佐藤 正雄 議員  
(日本共産党福井県議会議員団)



問

北陸新幹線に伴う北陸線の第三セクター化において、国とJR西日本に対し、フリーゲージトレイン導入までは、乗客の利便性が低下しないよう現行在来線の特急の金沢―大阪間、金沢―名古屋間の運行を石川県と協力して強く求めるべきと考えるがどうか。

答

敦賀駅でのフル規格による大阪延伸までの間の接続方法としてのフリーゲージトレインの開発が、フル規格による大阪までの延伸に影響を与えてはならないと考える。この開発が敦賀開業に間に合わない場合は、在来線への乗り換えによる利用者の利便性の低下を回避することが重要であり、そのための最善策を講じるよう国やJR西日本に要請しており、これからも引き続き要請していきたいと考える。

その他の質問事項

○原子力行政、人口問題へのアプローチ等



平成26年度産米価の見直しと生き残り策

小寺 惣吉 議員  
(自民党県政会)



問

県は、農業経営の大規模化、集約化により、生産コストの縮減を図る方向性を打ち出しているが、米づくりを取り巻く極めて厳しい現状の中で、担い手農家がやっていけるか心配である。本県の平成26年産米価の今後の見通しと米産地の福井県としてどのようにに生き残りを図るのか、所見を伺う。

答

福井米については、今年から食味検査に基づき、品質を3区分に分けて集荷することが可能になった。市場の需給状況に応じた品質の米を販売することになることから、平成25年産米の販売が完了し、新米にかわるころから、JAと連携して、最高ランクの米を販売する戦略で、販売価格をアップさせていきたいと考えている。

その他の質問事項

○古墳群を活用した観光戦略等

舞鶴若狭自動車道全線開通の効果

西本 正俊 議員  
(青 藍 会)



問

小浜市内の観光、宿泊業者からは、時間短縮による中京方面等の観光客増加や、嶺北との一体感やリピーターへの期待の声などがあり、「放生祭り」も県内外の観光客でにぎわうなど、改めて舞鶴若狭自動車道の全線開通の効果を実感した。観光面の経済効果と地域への波及効果、この好調を持続し、パワーアップするための取り組みについて伺う。

答

舞鶴道の全線開通後も宿泊客数は前年並みで、嶺南の観光消費額は微増と推測する。秋の行楽シーズンに向け、嶺南初公開の若狭路恐竜展や寺社や庭園等のライトアップなど夜の楽しみの創出による宿泊客増加のほか、特産品を還元する「モリモリ若狭路キャンペーン」や多くの施設で特典がある「さとうみパスポート」等により、観光消費額の拡大を図っていく。

その他の質問事項

○超高齢化社会への対応等

中山間地の特徴を踏まえた農業振興支援

中井 玲子 議員  
(自民党県政会)



問

全国で耕作放棄地が急増する中、本県では1,738haと全国で3番目に少ないものの、人口減少、高齢化社会が進むにつれ、耕作放棄地の増加が懸念される。特に、中山間地域においては、担い手の有無や地理的条件など、地域特性を踏まえた対策が必要であるが、具体的にどのような支援を行うのか。

答

土地の傾斜が穏やかな集落では、広域営農組織に組み込み水稲や園芸の大規模化を図るほか、小規模かつ急傾斜など生産条件が不利な農地では、集落営農組織がある場合はハウス整備や苗購入の支援を、同組織のない場合は地域営農サポートやJAの広域作業受託による営農継続、こだわり米など地域特産品の生産拡大などを行い、耕作放棄地の解消、発生防止に努めたい。

その他の質問事項

○子育て支援・保育の充実等

大学生への県内企業企業への就職推進策

西畑 知佐代 議員  
(民主・みらい)



問

女子大学生を対象とした県内企業就職推進事業の内容と多くの学生を県内就職に結びつけるために力を入れる点を伺う。また、企業見学会やプレインターンシップへの多くの県内外の学生の参加が重要と考えるが、具体的な目標について伺う。

答

県内企業の若手女性職員による「ふくいの就活女子応援員」が、関東・中京・関西で開催する就職相談会や大学で行う就職セミナーに出向き、福井で働くこと、暮らすことの良さを伝えてもらう。大企業に目が向きがちな学生を県内就職に誘導したい。県内では、「ふくい女性活躍支援企業」の見学会等も考えており、県内外の女子学生約140名の参加を、また、プレインターンシップでは、男女合わせて100名の参加を見込んでいる。

その他の質問事項

○窃盗犯への対策、学校給食等

## 教員の専門性を活かした評価基準

糀谷 好晃 議員  
(民主・みらい)



### 問

OECDの調査において世界一多忙という日本の教員の勤務時間については、事務作業や部活動の指導時間が含まれる等幾つかの要因が考えられる。教育現場に密着した労働環境と教員の専門性を十分に活かした評価基準等の施策が必要と考えるが、所見を伺う。

### 答

総労働時間については、正規教員以外の割合が高い国が入っているなど、一概に比較することは適当ではない。教育の自己効力感が低いことが懸念されているが、本県の場合、学校と家庭、地域の関係がよく、教員に対する信頼が極めて高いという評価を得ている。現場の教員の意見を十分に反映した教育環境を整え、170名超の教育者人といった教員の得意とする専門的な力を持ち寄って、学校組織全体の教育力を高めることを大切にしたい。

### その他の質問事項

○戦争遺跡の意義と保存等

## 請願・陳情について

### 1 請願・陳情とは

請願・陳情は、県民の皆様の意見や要望を県政に反映させるための大切な制度です。

県政について意見や要望がある方は、どなたでも議会に請願や陳情を行うことができます。

受理した請願・陳情は審査し、内容を適当と認めるときは採択し、県政に反映されるように努めています。

### 2 請願や陳情の方法

請願の様式は、福井県議会ホームページ「ご案内」の中の「請願・陳情」のページに掲載してある様式を参考に作成し、提出してください。

請願には、1名以上の議員の紹介が必要で、紹介議員の署名または記名押印を受けてください。

陳情は、請願と同じ様式ですが、紹介議員はいりません。

提出部数は1部です。

定例会開会日の午後5時までに受理された請願は、その定例会で審査されます。

### 3 お問い合わせ先

福井県議会事務局議事調査課

電話 0776・20・0609

## 傍聴のお知らせ

福井県議会では、2月、6月、9月、12月の4定例会の本会議と委員会を傍聴することができます。

本会議の傍聴は、当日の先着順となっています。電話での予約はできません。

議事堂2階の傍聴席入口前で傍聴券を受け取り、入場してください。

傍聴席には、車いす用のエレベーターを設置しているほか、代表質問日や一般質問日には手話通訳者を配置しています。

### 傍聴案内チラシ

## 第384回(12月)定例会

# 福井県議会

傍聴してみませんか！



## 11月28日(金)～12月16日(火)

|                           |       |             |
|---------------------------|-------|-------------|
| 11月28日(金)                 | 午後1時  | 本会議(提案理由説明) |
| 12月2日(火)                  | 午前10時 | 本会議(代表質問)   |
| 4日(木)・5日(金)               | 午前10時 | 本会議(一般質問)   |
| 8日(月)・9日(火)・10日(水)・11日(木) | 午前10時 | 常任委員会・特別委員会 |
| 12日(金)                    | 午前10時 | 予算特別委員会     |
| 16日(火)                    | 午後2時  | 本会議(採決)     |

### ◎傍聴について

- 1 本会議の傍聴
  - ・本会議の傍聴は、当日の先着順になっており、電話での予約はできません。
  - ・本会議の傍聴席には、車いす用エレベーター、手話通訳者を配置しています。
- 2 委員会の傍聴
  - ・委員会の傍聴は、各委員会開催日の3日前の正午までに傍聴申出書を提出して下さい。

※ 県議会に関する詳しい内容につきましては、以下の本県議会ホームページをご覧ください。  
→ <http://info.pref.fukui.lg.jp/ikai/youkoso.html>

福井県議会事務局 お問い合わせ先 TEL 0776 (20) 0609

※日程は10月3日現在の会期(案)であり、変更される場合もあります。  
※最新の日程は県議会HPでご確認いただくか、議会事務局までお問い合わせください。

委員会の傍聴の受付は、各委員会開催日の3日前の正午までに傍聴申出書を提出してください。

委員会当日は、開会予定時刻の15分前までに議事堂1階正面ホールで傍聴券を受け取り、入場してください。

ただし、傍聴希望者が定員を超えたときは抽選となります。

なお、申込者が定員に満たないときは委員会当日の申し込みを受け付けます。

議事調査課傍聴担当

0776・20・0609



## 総務教育常任委員会

### ○教育委員会関係

予算関係議案の「文化財指定促進事業」について、「本県には文化財が多数あるが、アピール力が弱い。どう活用していくのか」との質問に対し、「観光営業部や地域と一体となり、ストーリー性を持った文化財群としてアピールしていく。また、祭りなどの調査にも力を入れたい」との見解が示された。

このほか「自主的な学習力、創造力を育む教育」「定時制高校の見直し」等の質問があり、対応等が示された。

### ○総務部、国体推進局及び選挙管理委員会関係

「1県民1スポーツ運動」について、「県民全体に取り組んでもらうのは簡単ではないがどうか」との質問に対し、「福井国体の県民運動基本方針に掲げており、アクションプラン策定の中で、取り組み方針を検討していく。多くの

県民に国体終了後も続けられるスポーツを見つけていただきたい」との対応と見解が示された。

このほか「消費税引き上げによる県内経済への影響」「ふるさと創造プロジェクトの実施状況」等の質問があり、対応等が示された。



1県民1スポーツ運動

### ○総合政策部、会計局、監査委員及び人事委員会関係

「エネルギー成長戦略特区」に関し、「LNG関連施設の整備について研究会で議論しているが、需要は見込めるのか」との質問に対し、「エネルギーの多元化が大きな流れであり、LNGを燃料とする火力発電所の誘致は欠かせない」との見解が示された。

このほか「北陸新幹線の整備促進」「人口減少対策」「山里〇御門の整備」等の質問があり、対応等が示された。

## 厚生常任委員会

### ○安全環境部関係

原子力防災総合訓練について、実際の災害時における運転要員の確保や段階的避難の実現性に関する質問があり、国主催のワーキンググループにおける検討状況や住民が安心できる情報提供のあり方について見解が示された。さらにスクリーニング場所の機能確保、個別訓練の充実、参加人数の拡大等について質問等があった。

また、地球温暖化対策について、本県の原子力によるエネルギーの低炭素化への貢献を踏まえ、「住民の理解促進とともに、地域から原子力の必要性を訴えるべき」との意見があり、原子力の重要性の一方、原発事故を二度と起こさないための監視の必要性について見解が示された。

このほか、「再生可能工



婚学講座

エネルギーの導入促進」「高浜、大飯原発の再稼働見通し」等の質問があり、対応等が示された。

### ○健康福祉部関係

新たな元気な子ども・子育て応援計画の方向性における結婚支援について、「県外企業就職者は対象外であり、県外への転出超過の歯止めとしないかどうか」との質問に対し、「県内企業のPRとともに、帰省した学生等も含め婚学講座も開催した」との対応が示された。また、結婚観、家族観の醸成のための家族や地域による子育ての重要性について意見があった。さらに、数値目標の設定、経済支援策の検討等について質問等があった。

また、元気な高齢者の拡大について、「福井国体を契機に将来も効果を継続するため、体系的な健康づくりの県民運動を展開すべき」との要望があった。

このほか、「幼保連携型認定こども園への移行」「安定ヨウ素剤の緊急時配布」等の質問があり、対応等が示された。

## 産業常任委員会

### ○産業労働部及び労働委員会関係

大学生の県内企業推進事業について、「大学で学んだことを活かす雇用環境をつくるために、県内に大企業の工場を誘致しても、研究開発部門等は県外の本社採用となるということに対して、どのような対応していくのか」との質問に、「誘致企業に対し、工場だけでなく企画開発、研究等の機能を付加するよう働きかけていく」との見解が示された。

このほか、「伝統工芸の振興」「福井経済新戦略の改定」「景気動向の先行き」等について対応等が示された。

### ○観光営業部関係

北陸新幹線金沢開業に向けた誘客について、「地域ごとにパッケージ化した観光戦略は持っているのか」との質問に、「例えば、あわら温泉と北部丘陵、恐竜博物館と永平寺などを、東京から北陸新幹線で金沢を経て京都に至るルートの中で、バスで経由して観光させ

ることで、誘客を図っていきたい」との見解が示された。

このほか、「新ふくい人の誘致」「文化財指定促進事業」「ふるさと納税の動き」等について対応等が示された。

### ○農林水産部関係

米価対策について、「全国的に米価が下落しているが対策はどうなっているのか」との質問に、「市場では平成25年産米が残っており、今年末頃から平成26年産米が動くことになるため、現時点では状況を見守っているが、必要があれば国へ政策を提案する等対応を検討していく」との見解が示された。

このほか、「新たな水産計画の骨子（案）」「農地の集積」「地域特産物応援育成事業の取り組み」「広域作業受託組織の概要」等について対応等が示された。



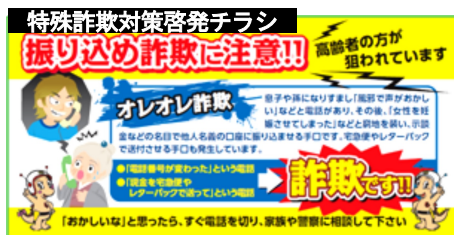
稲刈り

## 土木警察常任委員会

### ○公安委員会関係

特殊詐欺犯罪対策について、「未然防止が重要であるが、どのような対策を講じているのか」とただしたのに対し、「高齢者に対し、電話で『現金を送れ』と言われたら、110番通報するよう、注意喚起しているほか、金融機関に対して、声掛けに応じない場合には、直ちに警察に通報するよう、協力を依頼している」との対応が示された。

また、DV事案対策について、「被害者の不安を取り除くため、届



出後の一連の流れや、解決までの道筋について、さらに広く周知してほしい」との要望が述べられた。このほか、「信号機の整備」「高齢者の交通事故防止」「飲酒運転の根絶」等の質問があり、対応等が示された。

### ○土木部関係

中部縦貫自動車道について、「利便性向上のため、1.5車線を設けるよう、国に要望すべき」とただしたのに対し、「開通後の交通量や、除雪や事故対応時の必要性等を踏まえ、国等に要望したい」との見解が示された。さらに、「パーキングエリア等を設置し、観光PRをすべきではないか」とただしたのに対し、「無料の道路であり、パーキングエリア等は設置しないが、観光営業部と連携し、道の駅も含めた一体的なPRを検討したい」との見解が示された。

また、国から津波の基準が発表されたことを受けて、今後の対策をただしたのに対し、「百年に一度の津波に対しては、防波堤の耐久性を確認し、必要な整備を行い、千年に一度の津波に対しては、警戒区域等の指定を行う」との対応が示された。

このほか、「えちぜん鉄道の高架化」「入札制度」「空き家の除却」等の質問があり、対応等が示された。



## 予算特別委員会

### ○人口減少問題

福祉、産業、農業、教育分野と広範にわたり論及があり、「『第三次福井県元気な子ども・子育て応援計画の方向性』の目的を明確にすべき」「産んでからの支援だけではなく産んでもらうための政策を積極的に打ち出すべき」との提言がなされるとともに、「施策を進めていくに当たっては、市町ごとに数値目標を設定し県と全市町が協力して取り組むべきではないか」との意見が述べられた。

このほか、若者に魅力ある県内企業の育成と本社機能の移転を含めた企業誘致、正規雇用の促進、県内大学の魅力アップと入学枠の拡大、地域を支える人材を育てるための職業教育の強化について、県の対応をたじた。

### ○経済対策及び産業政策

改定に着手した経済新戦略について、人口減少社会における経済

の実態を踏まえた経済戦略のあり方について論及があり、委員より、「他県に負けない産業を構築するためには福井県独自の新しいものを構築していくことが重要である」との提言がなされた。

このほか、交通結節点となる敦賀における敦賀港を背景とした企業誘致や、さらには福井県出身者とのつながりを活かした企業誘致、丹南地区の伝統産業の振興、上海ビジネスサポートセンターの成果について県の対応をたじた。

### ○観光・ブランドの振興

「福井県の魅力を高めるために、福井県にしかない大きな目玉をつくることが重要であり、幕末の三偉人を題材にした大河ドラマや歴史公園の整備をしてはどうか」とたじたのに対し、知事より、「大河ドラマについては、準備チームを設けて検討し、歴史公園については、県都デザイン戦略の中で検討していかねばならない」との見解が示された。

このほか、舞鶴若狭自動車道全

線開通に伴い、利用者がふえる県内サービスエリア、パーキングエリアにおける本県のブランド発信や特産品などの販売強化、中部縦貫自動車道県内区間におけるパーキングエリア等の新設要望、地元伝統工芸を活用した新幹線南越駅舎の整備要望、東京オリンピックに向けたキャンプ誘致・誘客・県産品の販売戦略、国体・オリンピックを契機としたスポーツツーリズムの振興、SNSを活用した情報発信について県の対応をたじた。



### ○原子力及びエネルギー政策

日本原子力研究開発機構の旧展示施設アクアトムの県と敦賀市への無償譲渡について、委員より、県益にかなう活用を求めたのに対し、「敦賀市と十分協議し、施設の活用については、エネルギー研究開発拠点化計画の推進とともに、市街地の活性化にも寄与するものにしていきたい」との見解が示された。

このほか、原発再稼働時の県の判断基準や「もんじゅ」の集中改革期間の延長への対応、広域避難における県外の受け入れ態勢、SPEEDYの活用、原子力防災訓練の総括と評価について、県の対応をたじた。

### ○その他

北陸新幹線・地域鉄道について、高齢化社会対策などの福祉行政について、農業行政について、土木行政、教育行政について県の対応をたじた。

※ 代表・一般質問で質問を行った以外の議員について記載しています。また、質問および答弁は発言の一部であり、詳しくは福井県議会HPで御確認いただけます。

### 栗野交番の建て替え

石川 与三吉 議員  
(自民党県政会)



#### 問

敦賀警察署栗野交番は、昭和57年に建設された。老朽化も進み、敷地が狭隘なため駐車場も少なく、住民が立ち寄りにくくなっている。加えて、栗野地区は敦賀市民の3分の1が生活し、人口も年々増加している。住民の安全・安心のために一日も早い建て替えが必要と考えるがどうか。

#### 答

交番の建て替えは、個々の老朽度や耐震性の問題を踏まえて、その都度緊急性を判断して行っている。

栗野交番についても、老朽化が進み、狭隘な土地であるということ、地区民2万3千人の安全・安心を守る拠点であるということは認識している。

今後、道路整備に伴う環境や情勢の変化にあおられることなく交番の整備を行っていききたい。

#### その他の質問事項

○県道柳ヶ瀬線、動物愛護センターの建設、国道8号バイパス等

### 道の駅の活性化

畑 孝幸 議員  
(自民党県政会)



#### 問

道の駅は、特産品の販売等地元産業に役立つ施設であり、誘客とリピーター獲得のため、整備促進とともに、活性化を図るべきである。国は来年度の概算要求において、道の駅の機能強化のため、地域振興や福祉、防災等の観点から先進的取り組みを行うモデル事業の予算を計上している。本県もこれに積極的に取り組むべきと考えるが、所見を伺う。

#### 答

道の駅は、道路管理者が駐車場等を、商業施設は地元市町等が整備をすることになり、道の駅の整備は、県、市町の意向が重要なポイントとなる。国からモデル事業の詳細が示され、市町による新たな道の駅設置の計画が具体化した時点で、市町とともに採択されるよう積極的に手を挙げていきたい。

#### その他の質問事項

○サービスエリア等における特産品販売の拡大、鳥獣害対策等

### 丹南地区における伝統産業の支援体制

田中 敏幸 議員  
(自民党県政会)



#### 問

丹南地域には、伝統産業が集積している。今年度、越前ものづくりの里プロジェクト協議会が発足されたが、厳しい状況にある伝統産業をどう支えていくのか。また、産業技術拠点であるサンドーム福井にふくい産業支援センターの機能を分所化し、市町の職員も配置して、一体となって伝統産業の振興に取り組んではどうかと考えるが、所見を伺う。

#### 答

丹南地域における伝統産業については、商品開発、人材育成、経営支援の3つの観点から仕事を進めている。また、サンドーム福井については、伝統工芸品の販売拠点の整備や、ふくい産業支援センターの機能を置いて、産業振興の機能をより高めるにはどうしたらいいか、検討していきたい。

#### その他の質問事項

○OEMによる水質浄化等

### 大河ドラマの誘致と歴史公園の整備

山本 文雄 議員  
(自民党県政会)



#### 問

多くの観光客が集まってくるには、福井県にしかない魅力ある大きな目玉をつくることが重要であり、幕末の松平春嶽、由利公正、横井小楠の三偉人を題材にした大河ドラマの誘致や歴史公園の整備をしてはどうか。

#### 答

大河ドラマについては、題材となる主人公以外にも、登場人物や女性との関係、活劇の必要性などあり、題材としてふさわしい人物について、いろいろな研究も必要である。いずれにしても大河ドラマ、あるいは映画や大河ドラマに至らないドラマもあると思うが、準備チームを設けて検討していきたい。

歴史公園については、県都デザイン戦略の中で、どういうタイプのことが成し得るのか、十分検討しなければならないと考える。

#### その他の質問事項

○人口減少対策、国体競技施設へのアクセス道路の整備等



南条SAにおける  
本県ブランドの発信

仲倉 典克 議員  
(自民党県政会)



問

南条SAは年間2百万人が利用すると言われ、県内一の観光地とも言える場所であるが、現状では、福井らしさが感じられるような施設にはなっていない。舞鶴若狭自動車道の全線開通により関西や中国地方から本県へのアクセスが向上した今、県全体の産業の底上げの観点から、既存の施設とは別に、県が主体となって、自由に福井ブランドを発信する拠点を設けるべきではないか。

答

南条SAについては、これまで、南越前町を中心に、国土交通省や農林水産省の交付金等を活用した新たな物産施設の検討も進められてきているので、このような経緯や今後の町の意向も考慮しながら、県として必要な支援をしっかりとしていきたい。

その他の質問事項  
○人口減少時代への対応、オリンピック特需の獲得

福井版GNH

(国民総幸福量)の提唱

斉藤 新緑 議員  
(自民党県政会)



問

現在の人口減少社会において、福井ふるさととの農村、漁村の持つ力は相当のものがあ。農村が持つ金にならない自然、環境に投資をすることが、ふるさと福井をつくっていく基本である。

答

ブータンのGNH(国民総幸福量)に基づき、たとえ収入が減っても、一生安心して暮らせる田舎の福井を里山経済として体系化して提唱してはどうか。

農業は生産の基盤であり、生活の基盤である。農村だけで循環型で生き産業として成り立たすことも必要である。

国が進める「まち・ひと・しごと創生」の中で、いろいろな地方の提案が必要なので、そのような形で考えてみたいと思う。

その他の質問事項

○スポーツツーリズムの推進

ブラジル訪問

10月8日から9日間、田村議長をはじめ福井県議会訪問団がブラジルを訪問し、「福井県移住100周年・ブラジル福井県文化協会(県人会)創立60周年記念式典」に参加するとともに、サンパウロ州議会を表敬訪問し、ブラジル福井村を訪問するなど、交流を深めました。

10月12日に式典がサンパウロ市において開催され、福井県議会からは、田村議長、野田議員、吉田議員、大久保議員、畑議員が出席しました。田村議長はあいさつで、同協会(県人会、現在の会員586世帯、1760名)が1954年の設立以来、社会の変遷や困難を乗り越え、福井

県とブラジルを結ぶ唯一の機関として多大な貢献をされていることに感謝し、今後も福井県出身の日系人の支援および福井県とブラジルをつなぐ活動を続けていただきたいと思います。

サンパウロ市では、イビラプエラ公園にある開拓先没者慰霊碑に参拝と献花を行い、ブラジル開拓に寄与した移民の方々のご苦労への感謝とご冥福を祈念しました。

また、サンミゲルアルカンジョ市の福井村(1967年に3家族14名が第1弾として入植、開拓。現在の人口225名)を訪問し、小学校等や福井県の支援で建設された体育館を視察するとともに、福井村の方々との交流を深めました。



福井県移住100周年・ブラジル福井県文化協会創立60周年記念式典



福井村の方々との交流

## 新幹線・地域鉄道 調査特別委員会

### ○北陸新幹線の建設促進

工期短縮に関し、「年末までが正念場。短縮に必要な約5千4百億円の財源に対して、県はどのような認識か」との質問に対し、「与党が政府に申し入れた課題として、新規着工区間の貸付料の前倒し活用、貸付料の貸付期間の延長、JR九州株の売却益の活用、国と地方の負担増の4点がある。貸付期間は30年と定められており、延長にJRは否定的。JR九州株の売却益は株式市場が前提で不透明。国費の増額は財務省が難しい。北陸新幹線はまさに安倍政権が掲げる国家戦略と合致するので、そのことを強く訴え、実現を図っていただきたい。県単独でも官邸、財務省へ要請していく」との見解が示された。

また、九頭竜川橋梁に関し、「工事着工はいったい頃か。着工までには時間がかかる部分もある」との見解が示された。



レトラム

### ○地域鉄道の活性化

福井鉄道が導入したドイツ製車両（レトラム）に関し、「撮り鉄などの鉄道ファンが集まる場所がない。まちなかに仕掛けをつくり、リピーターを増やすことや電車と商店街の共生の機会をとらえ、まちの活性化に取り組むべきではないか」との質問に対し、「鉄道ファンが集まる場所の整備もまちづくりの一環で、沿線市の魅力づくりにもなるので、市の担当部局や事業者とともに検討していきたい」との見解が示された。

このほか、「幸橋から木田四ツ辻駅の間の電停改良」について質問があり、対応が示された。

## 原子力発電・ 防災対策特別委員会

### ○原子力政策に関する国の責任

原子力発電所の再稼働に当たって、政府の責任が明確にされていないとして、事故発生時の対処や賠償の責任の所在についての質問に続き、「周囲からは福井県が原発を稼働させたがっているかのよう」に誤解されている。「政府の責任が今後どのように明確に示され、果たされるのか」「再稼働に当たり、国が最終的な責任を持たないならば動かさないというくらい強い態度で臨んでほしい」などの意見が出された。これに対し、「県は、国のエネルギー政策に協力している立場であり、その国策が揺らぐならば協力する必要はない。原子力が必要であり、重要であることが国策ならば、国がしっかりと国民に対し説明し、理解を得るべきである。立地として様々な判断をする際には、国の責任、覚悟を確かめ、県議会の意見を聞きながら判断していく」との考えが示された。

### ○原子力防災対策の充実強化

8月末に行われた県原子力防災

総合訓練を踏まえ、「スクリーニングが避難の妨げにならないよう、広大な場所とマンパワーが確保できる場所で行うよう、根本的な見直しを考えていないのか」と質問があり、県としては場所の追加を考えていることが明らかになった。



ゲート型モニター

また、「将来的に、各自が被曝の状況を把握して落ち着いた行動がとれるよう、放射線量の即位器の各家庭への配布を検討し、国に要請してほしい」との提案が行われた。

### ○エネルギー研究開発拠点化計画

国際原子力人材育成センター等の整備について、「世界レベルのものになるよう県としてもできる範囲でバックアップしなければならぬ」との意見が述べられた。

このほか、「原子力規制の在り方」「もんじゅの改善点の明確化」「使用済核燃料の中間貯蔵の現況」「嶺南の産業団地における企業誘致の見込み」「舞若道を活かした産業活性化」などの質問があった。



常任委員会の視察活動

○総務教育常任委員会

・実施日 8月5日(火)

・視察先 福井運動公園、

県立ライフル射撃場、

県立ホッケー場・越前町

人工芝ホッケー場、

越前町生涯学習センター

糸生分館、

県立武生高校定時制課程

・調査の概要

福井運動公園において、福井国体競技会場施設の整備概要について説明を受け、質疑応答後、県営陸上競技場、県立ライフル射撃場、県立ホッケー場・越前町人工芝ホッケー場を視察した。

越前町生涯学習センター糸生分館では、廃校施設の利活用に対する県の支援事業と糸生分館の概要について説明を受け、質疑応答後、施設を視察した。

県立武生高校定時制課程では、県立高校全体と同校の定時制課程の概要について説明を受け、質疑応答後、校内を視察した。

委員会としては、視察結果を踏まえ、福井国体開催に向けた準備・調

整、廃校施設を活用した地域振興、県立高校定時制課程の見直し等、県総務教育行政の審査の充実に取り組んでいく。



県立ホッケー場の視察

○厚生常任委員会

・実施日 8月5日(火)～

8月6日(水)

・視察先

岡山県議会、  
ひなせ 日生町漁業協同組合(岡

山県)

・調査の概要

岡山県議会では、新エネルギー・

地球温暖化及び岡山空港メガソーラー発電所について、岡山県から説明を受けた後、県有施設における太陽光発電の収支見通し、小水力発電や木質バイオマス発電の課題と可能性、関連企業の誘致等について質疑応答を行った。その後、岡山空港メガソー

ラー発電所の現地視察を行った。  
日生町漁業協同組合では、環境保全と里海創生について、同漁協、備前市から説明を受けた後、アマモやカキ殻の取組みによる効果、カキ養殖と底びき網の連携、公的支援のあり方等について質疑応答を行った。  
委員会としては、視察結果を踏まえ、県有施設における再生可能エネルギーの導入、里海づくりとその波及効果など、県の環境行政に対する審査の充実に取り組んでいく。



日生町漁業協同組合「五味の市」の視察

・実施日 9月4日(木)

・視察先

海浜自然センター、  
里山里海湖研究所、

コウノトリ飼育現場

・調査の概要

海浜自然センターでは、リニューアルによる展示内容や体験メニュー

について説明を受けた後、舞鶴若狭自動車道開通による効果やレジャーにおける利用促進等について質疑応答を行った。

里山里海湖研究所では、水月湖年縞の掘削現場を視察しながら、年縞の仕組みや世界的な希少価値等について意見交換等を行った。その後、福井ふるさと学びの森を視察した。

越前市のコウノトリ飼育現場では、コウノトリを野外定着させるための環境整備や米づくりについて説明を受け、将来性や他地域への普及の見通しについて質疑応答を行った。その後、周辺の環境等を視察した。  
委員会としては、視察結果を踏まえ、県内における里山里海湖づくりのあり方など、県の環境行政に対する審査の充実に取り組んでいく。



コウノトリ飼育現場(環境整備)の視察

## ○産業常任委員会

- ・実施日 9月9日(火)
- ・視察先 福井県水産試験場、

ふくいWOODバイオマ  
スセンター、

福井県工業技術センター

### ・調査の概要

福井県水産試験場では、施設及び事業概要について説明を受けた後、越前がにやウニの漁獲量に対する取り組み、県内の養殖業に対する取り組み等について、意見交換を行った。ふくいWOODにおいては、施設及び事業概要について説明を受けた後、木質ペレット及び木質ペレットを使用した建材の販売状況、間伐材の有効活用への取り組み等について意見交換を行った。

福井県工業技術センターにおいては、施設及び事業概要について説明を受けた後、特許戦略、3Dプリンタに関する今後の取り組み、企業のニーズ把握と研究テーマ絞り込み等について意見交換を行った。

委員会としては、視察結果を踏まえ、水産業及び林業に対する施策、地域企業への支援策等の審査の充実に取り組んでいく。

## ○土木警察常任委員会

- ・実施日 9月3日(水)～
- 9月4日(木)

- ・視察先 大型放射光施設スプリング8(兵庫県)、京都縦貫自動車道丹波綾部道路
- ・調査の概要

スプリング8では、科学捜査における施設の活用について、高輝度光科学研究センターの特別研究員から説明を受け、活用状況や犯罪捜査における役割、利用普及における課題等について質疑及び意見交換を行った後、実験・研究施設の視察調査を行った。

丹波綾部道路においては、丹波インターチェンジ及び京丹波わちインターチェンジ付近の道路・橋梁の建



ふくいWOODバイオマスセンターの視察

設現場を視察し、福知山河川国道事務所副所長から「丹波綾部道路の整備状況と期待される効果」について、説明を受けた後、質疑及び意見交換を行った。

委員会としては、視察結果を踏まえ、犯罪捜査能力の向上や高速交通ネットワークの整備等の審査の充実に取り組んでいく。



丹波綾部道路の視察

## 特別委員会の視察活動

### ○新幹線・地域鉄道調査特別委員会

- ・実施日 8月18日(月)

- ・視察先 越前市、南越前町、敦賀市における北陸新幹線施設整備予定地・工事箇所

- ・調査の概要 議会議事堂において、鉄道建設・

運輸施設整備支援機構から視察先の全体概要について説明を受け、質疑応答を行った。

その後、南越(仮称)駅予定地、新北陸トンネル奥野々工区、JR敦賀駅新幹線駅予定箇所、敦賀駅交流施設オルパーク、敦賀車両基地予定地、中池見湿地新幹線ルート予定箇所を視察し、南越(仮称)駅整備に伴う地元への影響、JR敦賀駅における新幹線駅の位置と在来線からの乗り換えの利便性、中池見湿地新幹線ルート予定箇所における地権者等について質疑応答を行った。

委員会としては、視察結果を踏まえ、工期短縮及び北陸新幹線整備に対する審査の充実に取り組んでいく。



新北陸トンネル奥野々工区の視察



## 福井県の土砂災害対策

### ○福井豪雨から10年

大きな被害をもたらした福井豪雨から今年で10年目を迎えた。平成16年7月18日未明から嶺北地方に降り始めた雨は、明け方には非常に激しい雨となり、足羽川においては過去に例を見ない洪水が発生し、福井市や旧美山町などを中心に、甚大な浸水被害が生じた。この災害を教訓に、福井県の土砂災害対策は大きく進展し、凍結されていた足羽川ダムの建設再開、足羽川の護岸強化、橋の付け替え、河床の掘り下げ、砂防堰堤の



福井市蔵作町（蔵作川）被害状況  
(平成16年7月19日)



蔵作川砂防堰堤  
(平成20年9月30日完成)

整備等のハード面の対策が進められる一方、土砂災害警戒区域等の指定を終えるなどソフト面での対策も強化された。

しかしながら、その後も全国各地で自然災害は多発している。県内では例えば、昨年9月、全国初の大雨特別警戒報が出された台風18号による豪雨により、嶺南地方を中心に大きな被害が発生しており、今なお復旧工事が続けられている。また、今年8月20日広島市で発生した局地的な豪雨による大規模土砂災害は、74名の死者を出すなど、甚大な被害をもたらしたことは、記憶に新しいところである。県としては引き続き、県民

が安全・安心を実感できる県土づくりのための災害対策に取り組んでいく。

### ○9月議会での議論

9月12日の代表質問においては、「県内における土砂災害の警戒区域の指定と対策について、現状と今後の対応を伺う」との質問に対しては、まず、「土砂災害のおそれのある1万1660箇所全てについて、土砂災害警戒区域の指定を終えており、この警戒区域の中で、建物に大きな被害の及ぶおそれのある特別警戒区域については、9475箇所を指定し、残る875箇所について、引き続き、地元の理解促進に努めている。」との現状説明があった。また、昨年の台風による豪雨等により、山の斜面の変化が見られることから、土砂災害警戒区域等の見直しを行い、エリアの拡大や追加を行うこととなっているが、「指定の見直しに当たっては、集落単位で住民説明会を開催するなど、住民に危険な箇所であることを十分認識していただき、全箇所の指定につなげていく。」との対応が示された。

また、「住民にその居住地域のリスクを周知し、いざというときの早期避難を促すためにも、土砂災害防止法に基づく「警戒区域」や「特別警戒区域」の指定を進めることが重要であることは言うまでもないが、再調査のスケジュールと調査の方針は」との質問に対して、「今年度中に調査を終え、来年の梅雨時期に間に合うように、市町に対して、ハザードマップによる周知、避難訓練の実施を働きかけていく」との方針が示された。

また、一般質問や土木警察常任委員会においても、「土砂災害対策はいつ、どこで発生するか想定できないことから、施設整備だけでなく、特別警戒区域を含めた全箇所の指定見直し、指定後のハザードマップの配布や避難訓練の実施などによる警戒避難体制づくりが重要」などの見解が示され、ハード対策のみならずソフト対策の重要性について繰り返し議論された。そのほか、砂防堰堤や擁壁などの整備の進捗状況や今後の整備方針、また、防災対策における市町との連携について質疑を行った。

平成26年9月定例会 議案等議決結果

※ 議案等に対する各会派の賛否の状況は、福井県議会HPでご覧いただけます。

◆議 案

| 議案番号   | 件 名                                            | 議決結果 |
|--------|------------------------------------------------|------|
| 第64号議案 | 平成26年度福井県一般会計補正予算（第1号）                         | 原案可決 |
| 第65号議案 | 福井県再生可能エネルギー導入推進基金条例の制定について                    | 原案可決 |
| 第66号議案 | 福井県幼保連携型認定こども園の設備および運営の基準等に関する条例の制定について        | 原案可決 |
| 第67号議案 | 就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律施行条例の一部改正について | 原案可決 |
| 第68号議案 | 福井県児童福祉施設の設備および運営の基準に関する条例の一部改正について            | 原案可決 |
| 第69号議案 | 母子及び寡婦福祉法の一部改正に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について          | 原案可決 |
| 第70号議案 | 業事法の一部改正に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について                | 原案可決 |
| 第71号議案 | 県有財産の取得について                                    | 原案可決 |
| 第72号議案 | 県有財産の取得について                                    | 原案可決 |
| 第73号議案 | 道路改良工事請負契約の締結について                              | 原案可決 |
| 第74号議案 | 道路改良工事請負契約の締結について                              | 原案可決 |
| 第75号議案 | 吉野瀬川ダム建設工事請負契約の締結について                          | 原案可決 |
| 第76号議案 | 道路改良工事請負契約の変更について                              | 原案可決 |
| 第77号議案 | 道路改良工事請負契約の変更について                              | 原案可決 |
| 第78号議案 | 道路改良工事請負契約の変更について                              | 原案可決 |
| 第79号議案 | 道路改良工事請負契約の変更について                              | 原案可決 |
| 第80号議案 | 平成25年度福井県歳入歳出決算の認定について                         | 継続審査 |
| 第81号議案 | 平成25年度公営企業会計における剰余金の処分および決算の認定について             | 継続審査 |
| 第82号議案 | 福井県人事委員会委員選任の同意について                            | 原案同意 |
| 第83号議案 | 福井県公安委員会委員任命の同意について                            | 原案同意 |

◆意見書

| 議案番号   | 件 名                       | 議決結果 |
|--------|---------------------------|------|
| 発議第70号 | 原子力規制の在り方に関する意見書          | 原案可決 |
| 発議第71号 | 障害福祉サービスの充実に関する意見書        | 原案可決 |
| 発議第72号 | 地方に人口と活力を取り戻す政策の実現を求める意見書 | 原案可決 |

◆請願・陳情

| 受理番号   | 件 名                                                 | 議決結果 |
|--------|-----------------------------------------------------|------|
| 請願第49号 | 政府に対する過剰米処理を求める意見書提出に関する請願                          | 継続審査 |
| 請願第50号 | 政府に対する農業委員会、企業の農地所有、農協改革など、農業改革についての意見書提出に関する請願     | 継続審査 |
| 請願第51号 | 公務員獣医師の処遇改善等に関する請願                                  | 採択   |
| 請願第52号 | 子供たちの健やかな成長を願う現行の保育水準の維持、拡充を求める請願                   | 不採択  |
| 陳情第46号 | ほっとサポートふくいに関する陳情                                    | 継続審査 |
| 陳情第47号 | 地方財政の充実・強化を求める意見書提出に関する陳情                           | 継続審査 |
| 陳情第48号 | ノロウイルス胃腸炎に対する簡易診断キット使用の健康保険適用年齢制限の撤廃を求める意見書提出に関する陳情 | 継続審査 |
| 陳情第49号 | 平成27年度予算及び障害者総合支援法に関する意見書提出を求める陳情                   | 採択   |

◆決定された議員派遣

| 件 名                         |
|-----------------------------|
| ブラジル福井県文化協会創立60周年記念式典出席     |
| ふくいバンコクビジネスサポートセンター開所記念式典出席 |

発行日：平成26年11月4日

発 行：福井県議会広報会議

問い合わせ先

〒910-8580

福井市大手3丁目17-1

福井県議会事務局総務課

tel 0776-20-0605

fax 0776-20-0674

HP <http://info.pref.fukui.lg.jp/gikai/youkoso.html>

12月定例会 会期(案)

|           |       |           |                     |
|-----------|-------|-----------|---------------------|
| 11月28日(金) | 開 会   | 12月10日(水) | 原子力発電・防災<br>対策特別委員会 |
| 12月2日(火)  | 代表質問  | 12月11日(木) | 新幹線・地域鉄道<br>調査特別委員会 |
| 12月4日(木)  | 一般質問  | 12月12日(金) | 予算特別委員会             |
| 12月5日(金)  | 一般質問  | 12月16日(火) | 閉 会                 |
| 12月8日(月)  | 常任委員会 | 12月9日(火)  | 常任委員会               |

※上記の日程は10月3日現在の会期(案)であり、変更される場合もあります。

※最新の日程は県議会HPでご確認いただくか、議会事務局までお問い合わせください。